

# 崩れぬ現金・預金志向

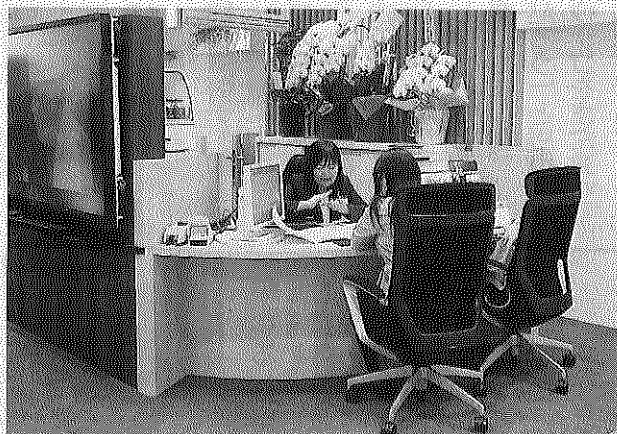
## 将来不安 企業も抱え込み

日本銀行が19日発表した2017年10～12月期の資金循環統計で、個人(家計)が抱える「現金・預金」は前年比2.5%増の961兆円に上り、過去最高を更新した。金融機関は「貯蓄から投資へ」の流れを加速させようと躍起だ。しかし、将来不安から、お金を抱え込む傾向が続き、デフレ脱却を遠ざけている。

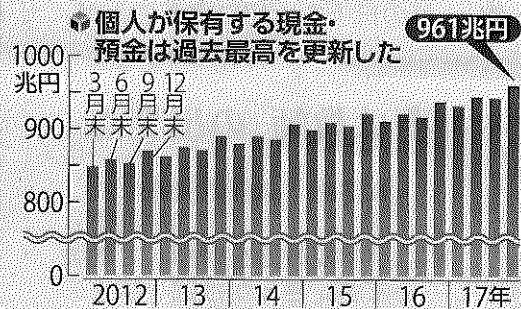
### 金融資産も

現金・預金のほかに株式や保険・年金なども加えた個人の金融資産は12月末時点で、1880兆円と過去最高を更新した。株式などの評価額が上がったためだ。

金融資産の全体(1880兆円)のうち、「株式等」は17.3%増の211兆円

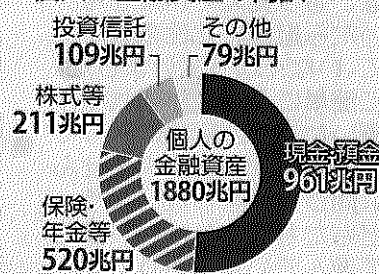


開放的なスペースでゆったりお金の相談ができるりそな銀行の「セブンデイズプラザ上野マルイ」(東京都台東区の上野マルイで)



の資産を株式や投資信託、保険などに振り向け、現金・預金の割合が低い。日銀の昨年8月時点の発表では、個人の金融資産に占め

### ●個人の金融資産の内訳



る現金・預金は、米国で約13%、ユーロ圏では約33%にとどまる。個人だけでなく、日本では、業績が好調な企業も、お金を抱え込んでいる。金融機関を除く民間企業の「現金・預金」は5.2%増の257兆円と過去2番目の多さだった。日本全体を覆う「現金・預金」志向は鮮明だ。

### 運用相談に力

超低金利で収益環境が悪化する金融機関は、個人に投資を促す取り組みを加速させている。三井住友銀行は19日、東京都港区の麻布十番駅そばに、個人を対象に予約制で資産運用などの相談を受け

### デフレ心理

もっとも、こうした金融機関の取り組みが、日本の「現金・預金」志向を突き崩せるのかは見通せない。個人や企業がお金を抱え込んでいる背景には、年金などの社会保障への不安や、人口減で日本市場が先細りになるとの見方があるためだ。長期的に日本経済が成長を続けるとの確信が持たなければ、国内投資は活発になりにくい。

第一生命経済研究所の星野卓也・副主任エコノミストは「デフレ心理が企業にも家計にも染みついていて、国内に魅力的な投資先

## 個人保有 最高961兆円

日本銀行の国債保有額が膨らみ続けている。2017年10～12月期の資金循環統計(速報)によると、日銀が保有する国債の残高は12月末時点で、前年比6.8%増の449兆円となり、保有比率は国債全体の41.1%だった。残高、保有比率とも過去最高を更新した。

## 日銀保有国債全体の41%

4月に始めた大規模な金融緩和だ。日銀は、長期金利を低く抑えるため大量の国債買入れを続けている。この5年間で、保有国債は13年3月の130兆円程度から300兆円以上増えた。対照的に銀行な

どが保有する国債は減少傾向にあり、今回の発表では13.8%減の183兆円だった。海外勢の保有も増えている。残高は6.6%増の12兆2兆円で、保有比率は11.2%となり、ともに過去最高を

更新した。海外勢は短期的な売買が中心のため、ニッセイ基礎研究所の上野剛志シニアエコノミストは「このまま海外比率が高まると、相場が乱高下しやすくなる」と指摘し

が少ないと考えている企業も多い」と指摘する。デフレ脱却に向け、積み上がった国内の現金・預金を活用して経済を活性化させる大胆な政策展開が政府に求められている。